

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
令和元年度自己評価表

評価基準  
4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

1. 教育理念・目標

担当	評価項目	令和元年評価	2019(令和元年)年度達成状況	令和2年度に取り組むべき課題等
林副校長	・教育理念等を明文化しているか。 ・教育理念等を教職員に対して周知徹底を図っているか。 ・教育理念等を公表しているか。	4	・本校パンフレットにて周知している。 ・Webサイトにて公表。入学者および保護者には入学ガイダンスにて周知している。 ・在校生・教職員には学生手帳を配布している。	・特になし
	・教育目的・目標、教育計画が文書化され、提示されているか。	4	・カリキュラム、シラバスを作成し、よりわかりやすい形で学生に提示している。 ・カリキュラムは、臨床実習施設にも配布。 ・シラバスはWebサイト「本校のHP」から時間割と共に閲覧可能。 ・本年度、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについて、HP上で公開した。	・本年度の新入生より、新指定規則でのスタートとなる。 ・昨年度に提出した新指定規則に合わせたカリキュラムが2020年1月に承認された。 ・新型コロナウイルス対応のため5月7日よりオンライン授業(実技系以外)を実施している。 ・オンライン授業となり大幅な時間割の調整を行っている。

2. 学校運営

担当	評価項目	令和元年評価	2019(令和元年)年度達成状況	令和2年度に取り組むべき課題等
林副校長	・理事会、運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に開催されているか。	4	・理事会、岩崎学園管理職の会議、本校教務部会議・学科会議・グループリーダー会議・各業務会議・朝礼を開催。	新型コロナの影響により自宅からのオンライン会議が増加している コミュニケーション不足によるトラブルを避けていきたい。
	・事業計画が定められているか。	4	・国家試験合格率は、全国平均を上回る結果であった。 ・新入生も定員割れを回避することができた。	新型コロナウイルスの影響で新年度の事業計画が未定となっている 事業運営の優先順位1番はコロナウイルスによる影響の最小化
	・予算・収支計画は有効かつ妥当であるか。	4	・有効かつ妥当に運営できている。	R02予算は昨年度中に作成している。 コロナ対応のため在宅勤務、オンライン授業等が始まっている。 通常授業並びに臨床実習に影響が出ており、収支予算にも影響が出る可能性あり
	・就業規則等は定められているか。	4	・定められている。	・5月末日まで教職員はリモートによるテレワーク中 ・一部の教職員が外部の電話対応や非常勤講師の対応にあっている
	・教職員一覧表(採用年、資格、年齢、学歴等記載)はあるか。	4	・学校基本調査に合わせ年に1回更新している。	・特になし
	・業務分掌は適切か。	4	・年度ごとに各業務担当(図書・備品、国家試験対策、学校行事、臨床実習、FD)を決定し、遂行している。	・新年度の業務分掌を策定した。 ・事務局の名称が広報学生課に変更され、事務職員1名の入れ替えがあった。 事務職員1名の育休からの復帰に合わせ、派遣職員2名から1名に削減している
	・人事考課は制度化されているか。	4	・夏冬賞与時、年度末実施	・特になし
	・出退勤が適切に管理されているか。	4	・タイムカードまたは出勤簿、届出を月次管理	・特になし
	・公印が管理されているか。	4	・「公印簿」に記載	・特になし
	・教職員の健康診断を実施しているか。	4	・2019年4月に実施	・2020年度はコロナの影響で延期されている
・情報システム化等により業務の効率化が図られているか。	4	・学籍管理、成績管理、証明書発行、学生募集等システム化。学生に配布するシラバス・教材等はネットワーク上サーバにてアクセス可能にしている。	・2020年度に学生募集システムの見直しが見込まれている	

3. 教育活動

担当	評価項目	令和元年評価	2019(令和元年)年度達成状況	令和2年度に取り組むべき課題等
水島	・シラバスのとりまとめと学生への周知はできたか。 ・シラバスの活用方法について情報を収集し、検討したか。	3	・開講前に各教室にシラバスの冊子を配置し、学生ネットワークに時間割と共に開示した。 ・配置時に、各科目担当教員や担任より学生への周知・活用を依頼した。	・ネットワーク上での公開について検討する。 ・奨学金新制度に適應するようシラバス書式を一部改良したものを導入。
	・育成人材像に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか。	4	・総単位PT123・OT120単位(指定規則93単位)。教育課程および授業時限数、学則は所管の神奈川県厚生労働局に提出済である。 ・2020年4月入学生から適用になる指定規則改定に適應する新カリキュラムについての申請を行った。	・新設された項目、他校にはない本校オリジナル科目を加えた特色のある新カリキュラムを作成する。
	・カリキュラムは事前に学生に周知しているか。	4	・入学生には入学オリエンテーション時に配布し、説明を行った。	・令和2年度も同様に実施済み。
	・カリキュラム作成に高校生の現状を反映させているか。	4	・学生募集イベント「体験入学」にて入学前の高校生に実施している模擬授業等から高校生の現状を把握している。 ・入学試験時の個別面接において、生活習慣、学習習慣、社会適応力などについて聴取し、必要なカリキュラム改定を実施している。 ・教職員2名が県立高校3校(横浜南陵・瀬谷・金沢総合高等学校)にて評議委員を務め実情を確認した。 ・令和2年度入学生の入学前教育プログラムを実施し、学習の受講状況について把握した。	・令和2年度も同様に実施する。 ・新型コロナ対応で、オンラインの導入など方法論を検討し、今までと変わらないように高校生の現状を把握する。
	・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	・学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会にて、情報を収集した。 ・岩崎学園就職指導部が卒業生就職施設へのアンケート調査を実施した。 ・関連分野の非常勤講師と意見交換を実施した。 ・臨床実習訪問時に、卒業生の状況、学校への評価などについて随時聞き取り調査を実施している。	・令和2年度も同様連携していく。 ・アンケート結果について分析する。
	・社会のニーズや学生の質に合わせたカリキュラムの見直しはできたか。	4	・指定規則改定に伴い新カリキュラムの具体的な内容について検討を重ねた。	・具体的な新カリキュラム内容に取り入れていく。
	・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	・シラバスに記載・学生へ周知している。	・特になし
岡村	・教員の採用について、専門性確保の観点から基準が設けられているか。	4	・学歴、業務経験等、担当科目により基準を設けて取り組めた。	・引き続きの方針で実施する。
	・授業スキルの向上のため、校内職員研修会を充実させ、組織として「確かな学力」、「考える力」を育成するための授業づくりを推進し、学生への指導スキルの向上を目指したか。 ・学生による授業評価(授業アンケート)の結果において、授業に対する積極性の向上は見られたか。 ・授業アンケート結果を受け授業の見直しを行ったか。 ・授業アンケートの活用方法について情報収集を行ったか。 ・教員の外部講習会への参加がみられたか。	4	・授業アンケートは適正に実施され、回答率は前期95.2%、後期89.2%であった。また、各担当から結果のフィードバックも行われた。 ・授業アンケートの活用についてのアンケートを実施した。 ・進研ゼミから講師を招き、教育セミナーを実施した。 ・教員は積極的に外部講習会へ参加した。	・シラバスは担当教員が確認することで、科目間の記載のバラツキを減らし、公開に向け準備する。 ・オンライン授業に伴い、オンライン授業用のシラバスを作成し、学生に配信している。 ・教育関係各種講習会への参加計画を積極的に勧める。
	・教員の指導力向上のための研修会の開催や外部機関での研修参加を促進することができたか。	4	・両学科ともR1年度の学会や各種研修会等へは積極的な参加が見られた。	・引き続き、研修会の参加や学会発表を促し、必要に応じて報告会を実施する。
	・非常勤講師との定期的な情報の共有を図っているか。	4	・年度替わりに次年度の「教務のしおり」を郵送し、確認をお願いしている。また、個々の教員が自分の教科の関連や担任として、非常勤講師との情報交換を実施している。	・2019年度に引き続き、必要に応じてさらなる情報交換を図る。 ・5月7日からのオンライン授業開始に伴い、非常勤講師にも同様にオンラインでできる授業を提示いただいている。
・担任業務サポート業務のマニュアル化において、昨年度作成したマニュアルの検証を行ったか。 ・そのマニュアルに調整を加え次年度の本実施に向けたものが完成したか。	4	・概ね実施された。	・適宜マニュアルの見直しを行い、より良い活動に促す。	

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
令和元年度自己評価表

瀬戸山	臨床実習	・実習依頼がスムーズに行えたか。 ・必要な実習施設の確保ができたか。 ・回答結果、承諾書の集計と管理ができたか。 ・実習施設からの申請書、契約書の管理ができたか。 ・回答結果に対する公文書の送付がスムーズに行えたか。	4	・実習依頼、実習施設確保、承諾書の集計と管理、実習施設からの申請書、契約書の管理は概ね滞りなく実施した。 ・回答結果に対する公文書の送付についてはトリプルチェックを行い、概ね滞りなく実施した。	・外部に発送する文書・提出する文書については、トリプルチェックを継続していく。 ・実習地確保関連、厚労省への施設登録関連について、タイムスケジュールを確認し、業務のめがねがないように留意する。
		・実習開始までに、厚労省への申請手続きが終了できたか。	4	・昨年度の厚労省への新規実習施設申請は、理学療法学科9件・作業療法学科8件の登録を行った。滞りなく実施した。	・継続していく。 ・新規実習施設申請用紙が一部変更されたため、注意する。
		・円滑な実習を実施できるような、指導者会議を企画・実施し、出席者数の増加や臨床教育の向上につながったか。	3	・指導者会議運営については、滞りなく実施でき、指導者会議参加率は3年次指導者会議において昨年度に比較して向上している。4年次指導者会議は、新型コロナウイルスの影響で中止した。 ・指導者会議参加率:3年次理学療法学科79.4%・作業療法学科76.4%	・2020年度3年次臨床実習(検査測定実習)を中止したため、6月に予定していた指導者会議は中止とした。
水島	情報公開	・教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	3	・希望受検者・保護者には、授業を公開している。 ・カリキュラム一覧表並びに授業風景、国家試験の合格率、就職率について本校HPおよびパンフレットにて公開している。 ・「教育課程編成委員会」及び「学校関係者評価委員会」の議事録をHP上に公開している。 ・授業アンケートの結果については、各科目担当者が学生にフィードバックを直接行うのみで、まだ公開はしていない。	・授業アンケート結果及び対応などの公開を検討する。 ・新型コロナ対策でのオンライン授業実施にあたって、シラバスに合わせた授業設計の公開を検討する。

4. 教育成果

担当	評価項目	令和元年度評価	2019(令和元年)年度達成状況	令和2年度に取り組むべき課題等	
岡村	資格	・学生全員に障害者スポーツ指導員が認定されたか。	4	・R1年スポーツ指導者資格取得認定校の手続きを実施した。 ・4年生全員の障害者スポーツ指導員の認定手続きを実施した。 ・1年生全員の障害者スポーツ大会サポート実習(ボランティア)をとりまとめた。	・2020年度スポーツ指導者資格取得認定校の手続き ・4年生全員の障がい者スポーツ指導員の認定手続き ・1年生全員の障がい者スポーツ大会サポート実習のとりまとめ ・PT1年生は障がい者スポーツ指導員中級取得にむけカリキュラム編成とサポートを行う ・コロナ感染拡大の影響で、障がい者スポーツ大会が中止されている。状況に合わせて対応を行う。
	卒業研究	・卒業研究発表会において、研究の成果を質の高い形で発表できたか。 ・卒業研究発表会において、円滑な会の運営ができたか。	4	・研究手順や論文作成に関して、詳細かつ具体的な指導要綱の作成し実施した。 ・発表会は円滑で、質問も多分出された。	・2020年度も作成した指導要綱で実施し、教職員の意見を頂き、必要に応じて改正する。 ・具体的かつ詳細なスケジュールを提示し、進めている。 ・コロナ感染拡大の影響で、PT学科では例年のような実験研究の取り組みは取りやめ、研究方法を変更し、進める方向である。
島田	国家試験・卒業試験	・国家試験における問題解説および分析を行い、国家試験についての対策(学生オリエンテーション、特別講義など)を図る。	4	・昨年度同様、国試問題携帯版を実施した。 ・臨床実習終了後の11月より特別講義等実施した。 ・土・日の学習環境拡大のため学校開放した。 ・国試学生担当者による面接を随時、実施。 ・学習低迷者に対して、特別教室を設置し対応した。 ・専門基礎分野の低学年からの国試対策が効果があった。	・国家試験の傾向、対象学生の状況など、情報を整理して学生指導に反映される対策を検討していく。 ・国試対策を4年生にのみ実施するのではなく、他の学年からも実施していく。 ・特別授業の時期と内容の検討を行う ・面談に来ないなどコントロールの利かない学生や学習に対する意識が低い学生に対しての対策の検討。
	卒業試験	・卒業試験において、趣旨に沿った選考基準が策定できたか。卒業判定が適正かつ公正に実施できたか。	4	・卒業試験は3回施行した。 ・試験問題の精度向上のため、試験作成者に昨年度作成問題の正答率提示・難易度配分依頼を行った。また、作成上、不適切問題がないように複数の教員で問題を確認する体制で行なった。 ・判定基準は、昨年同様の基準とした。 ・第55回国家試験結果は、PT:97.5%(新卒:97.4%、既卒:100%)、OT:93.0%(新卒96.8% 既卒83.3%)であり、全国平均 PT:86.4%、OT:87.3%で両学科とも全国の合格率を上回った。	・卒業試験問題作成時の依頼方法・問題校正作業の体制、合格基準等の検討は、継続して行っていく。
	卒業試験・実力試験	・卒業試験・実力試験において、趣旨や時期に沿った試験問題を選考・実施できたか。学生の国家試験勉強進捗の指標になったか。	4	・今年度は、業者模試を含め、年間13回の実力試験を実施し、2月上旬に実施試験のみの業者模試を組み入れた。分野別の正答率(平均点を含め)を提示し、学生個々の苦手分野への指導ツールとして利用できた。 ・実力試験では昨年度の卒業試験を取り入れ、全ての学生に卒業試験の過去問題が手に渡るようにした。過去問題を含め、卒業試験においても解説・解答を公開し復習する機会を与えた。	・実地試験の業者模試導入については、昨年度の振り返りを行い、今年度採用について検討する。 ・1月は卒業試験と業者模試の試験日程がタイトなので、業者模試の日程と施行方法を検討する。 ・卒業試験の再試験を実力試験として全員受験することとする。
中村・水島	臨床実習	・「実習の手引き」等の内容を充実させ、学生のスムーズな実習領域の実現に役立つものとなったか。	4	【理学療法学科】( )昨年度 ・1年見学実習:72名修了(81名修了)。 ・2年次体験実習:合格72名、0項目あり0名(合格79名、0項目あり0名) ・3年次臨床実習:合格78名、0項目あり0名、未実施1名(合格77名、0項目あり0名、未実施1名) ・4年次臨床実習:合格75名、0項目あり2名、うち1名退学(合格71名、0項目あり0名、退学2名) ・2020年度4年次臨床実習指導者会議は新型コロナウイルスに対する感染予防のため中止とした。そのため、指定規則改定に伴い改定が予定されている新臨床実習ガイドラインに基づいた実習の進め方について、文章を発送しお願いした。 ・3年生セミナー授業での「症例のまとめ」作成指導について、昨年度の振り返りを基に充実させた。 【作業療法学科】( )昨年度 ・1年見学実習:37名修了。(34名) ・2年基礎実習:介助技法の習得は、授業・実技を学内で実施。介護老人保健施設等での1週間の実習も33名修了。(38名) ・3年次臨床実習:対象学生33名(36名)中、合格29(31)名、不合格0(0)名、保留4(5)、中止0(0)、未実施0(0)。保留4名中、追加2名、学内2名 ・4年次臨床実習:合格34名(追加実習者1名含む)(35名)、不合格者1名(1名)。 ・生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進協力校A校として申請した。その基準を満たすように養成校に講演した。また基準指標として、MTDLPの臨床実習施設での使用が30%以上の目標は、結果64.7%(44/68)で達成できた。	【理学療法学科】 ・協会が作成する「臨床実習の手引」改訂版の完成を待つ。 ・県内の養成校と協議の上、実習の手引およびチェックリストを作成する。 【作業療法学科】 ・今年度は生活行為向上マネジメント(MTDLP)推進協力校A校その基準を満たすように、30%以上の実習施設でMTDLPを活用できるように臨床実習指導者に働きかける。 ・OT協会が作成する「臨床実習の手引」改訂版を基に、新カリキュラムにも対応(診療参加型実習)できる実習の手引の見直しを行う。
	臨床実習後の振り返りや理学療法士・作業療法士としての今後の課題を学生自ら明確にしたか。	4	・終了後、学内のセミナー(症例報告会)にて、実習における経験を共有した。 ・実習で明らかになった課題に対して、個々の学生が振り返りを行い、必要に応じて教員が指導・助言を行った。	・継続	
	強化組対策としての学習法の習得が再試験科目の減少につながったか。 ・成績不良による留年・退学者数の減少ができたか。	4	【理学療法学科】 ・1年生(22期生)の再試の平均数は1.49と昨年度(21期生)1.08よりも増悪した。留年者数は1年生(22期生)1名と昨年度(21期生)2名とほぼ同様。退学者は5名と昨年度(21期生9名)よりも減少した。再試数は増加したものの退学者は半減することができた。 ・2年生(21期生)の再試の平均数は1.05と昨年度(20期生)1.63に比べ減少した。留年者数は2年生(21期生)3名と昨年度(20期生)2名に対してほぼ同様であった。ただし成績不良に伴う退学者が3名おり、この学年(21期生)は入学時から減少が続いているため、3年次も注意が必要。 ・3年生(19期生)は再試数は1.16と昨年度(19期生)の0.54に対し倍増した。留年には至っていないものの、学力の低さを指摘されている学年でもあり、4年次の対策が重要。また1名の退学者は、学力は高いものの入学時から適性に関して悩んでいた学生であり、実習後に進路変更の決断に至った。 【作業療法学科】 ・強化組対象者の前年度からの総合点による偏差値比較では、1年平均43.9(比較なし)、2年平均38.2(前年度平均39.2で-1.0)、3年平均42.3(前年度平均36.0で+6.3)で、3年においてプラスの効果があった。強化組で総合点偏差値35以下の者は、1年1名、2年2名、3年2名であった。 ・後期での総合点による偏差値比較では、1年5名平均38.6(前期平均33.6で+5.0)、2年7名(含3名留年生除く)平均38.8(前期平均36.2で+2.6)で、3年13名平均45.6(前期平均42.6で+3.0)、においてプラスの効果があった。個別には、強化組対象で後期偏差値が前期偏差値を上回ったものがほとんどであったが、1年1名は退学に至った。	【理学療法学科】 ・学力低下者に対する強化組対策は継続強化する。 ・新入生は新カリの対象学年であり、初年次教育をさらに充実させる。 ・解剖・生理、専門科目について、低学年からの補講、上位学年からの指導を継続強化する。新型コロナウイルスの登校自粛にとまひない、オンラインで実施できるか検討し進める。 【作業療法学科】 ・強化組対策または早期の国家試験対策(放課後教室)を本年度も実施する。新型コロナウイルス対策で出校制限がかかる可能性があるため、オンラインでの開催も検討していく。	
	・退学率の目標を設定しているか。またその成果は十分か。 ・退学率の低減策が教職員に共有されているか。 ・留年・退学結果について検証・報告を行ったか。	1	・留年率PT1.5%(昨年度4.3%)、OT3.9%(昨年度4.5%)・退学率はPT4.3%(4.3%)、OT6.5%(昨年度3.9%)であり、目標とした4%以内に留まらなかった。	・退学率・留年率の数値目標4%以内を継続する。	
卒業生	・卒業生の社会的活躍や評価を把握しているか。	4	・各関連学会、学会誌等で卒業生の動向を把握し、学校説明会において紹介した。 ・概論の授業では、障害者スポーツに関して実技も交え講演を依頼している。 ・卒業生参加の授業を積極的に増加させている。	・継続	

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
令和元年度自己評価表

5. 学生支援

担当	評価項目	令和元年評価	2019(令和元年)年度達成状況	令和2年度に取り組むべき課題等
岡村	・挨拶や服装、遅刻など基本的な生活習慣の確立、社会性・公共性を育む指導・支援ができたか。 ・様々な教育活動において、社会人・医療人としての精神の育成に向けた支援ができたか。 ・学習状況実態調査で学生全体の生活習慣や学習環境を把握できたか。 ・実習で指摘された社会性(情意面)についてまとめ、その結果を支援に生かすことができたか。	4	・年度初めは、新入生に社会性や公共性に欠ける言動の学生が散見されるため、基本的な生活習慣と社会性について指導した。また、実技授業等においても随時社会人・医療人としての資質の育成・向上に向けて指導を行った。 ・障害者スポーツ大会サポート実習(ボランティア)では、高い評価を受け、関連した大会においてもボランティアを要請された。 ・1年次の見学実習においても、チェックリストを使用し、結果を学生の個別支援に活かした。	・基本的な生活習慣と社会性については継続した指導を行う。 ・理学療法学科では初年次教育として、学科教員で社会性を含めた指導に取り組む。 ・1年次の見学実習におけるチェックリストは継続する方向で進める。 ・コロナ感染拡大の影響で、1年生に指導が開始できる時期が遅れるため、オンラインにて担任が面談を行いフォローする。
	・学園祭などの活動において学生が主体的に活動し、リーダーシップやコミュニケーション能力などの育成に向けた支援ができたか。 ・学校行事の充実に向けた支援ができたか。また、参加率が90%以上に到達したか。	4	・学生がより主体・主導的に動けるよう支援し、準備から当日まで滞りなく実施できた。また、地域作業所の出店や「つなぐカフェ」の実施をし、地域の皆さんにもご参加頂けた。 ・食販では教職員で衛生面のチェックリストを参考にして巡回を行った。その結果、リアルタイムに衛生指導を実施することができた。 ・最終日の後夜祭終了後、各教室を巡回した際、ゴミが残留している教室が認められた。また後夜祭前に下校している学生が多く、片付け作業で学祭委員に負担がかかった。	・学園祭での地域作業所の出店や「つなぐカフェ」は次年度も継続して行い地域貢献を広げていきたいと考える。 ・学生が主体的に楽しめる学園祭を支援すると共に、基本的に遵守しなければならない事項(ゴミ捨て、手洗い、消毒)等の徹底を図る。特に実施方法については昨年度よりも内容が変更する場合もあるため、学生への説明を丁寧にしながら混乱のないよう実施していく
机	・効率的に行事が運営できるよう、全体の年間予定表・各行事のマニュアルの再調整を行い、業務の連携及び効率化を図れたか。	2	コロナウイルス感染拡大予防策での行事運営となり苦労が多かった。特に本部からの決断がぎりぎりとなったこともあり、学生からの不満が多く聞かれた。しかしながら、短縮時間で各クラスごと実施ができ、職員による徹底した消毒や換気、物品の設置など手際良くスムーズに出来た。	・滞りなく進められるよう業務整理をして教務部及び事務局との連携を強化する。 ・岩崎全体で行う行事については本部と連絡を強化する。また変更の決定に従って、臨機応変にスムーズに対応できるようにする。 ・学内で実施するその他の行事(成果発表大会やSVMなど)と合同卒業式や入学式など行事が重なるため担当者の配置を検討し、1人あたりの業務負担を軽減できるよう工夫する。入学式については事務局担当が中心となって実施していく。教務は協力体制をとっていく
	・学生の情報交換を定期的に行い、心身の健康問題への適切な対応ができたか。	4	・定期的な面談に加え、必要に応じ随時面談を実施している。各学科会議でも情報を共有し対応策を検討する中で、必要に応じてはスクールカウンセラーの利用を促すなど心身の健康問題等への適切な対応を行った。 ・週1回学科会議および問題発生時適宜学生に関する情報交換を行っている。	・特になし
中村	・学生の面接・面談の記録があるか。	4	・学生カルテを作成し、学生のプロフィール・緊急連絡先及び面接の記録、臨床実習の記録を保管している。	・特になし
	・就職・進路について相談できる担当者がいるか。	4	・担任、国試担当教員、就職指導職員が対応にあたった。	・特になし
	・学生の健康診断を定期的に行っているか。	4	・年1回実施(2019年度は4/1・2に実施)	・年1回実施。(今年度は実施を延期し、今後の予定は未定である。)
宮野	・犯罪・薬物・消費トラブル等の指導を行っているか。	4	・4/23薬物乱用防止セミナー実施した。	・特になし
	・就職指導支援体制整備 ・就職内定率目標(年内60%・年度内100%)の達成 ・学生の就職希望データベース化 ・既卒者対象求人情報データベース化	3	・年度内内定率 PT:97.3% OT:96.7% わずかに届かなかったものの、4月に入ってすぐに内定となった者もあり、残る1名も就活活動中である。	・学生個人の国家試験対策状況を鑑みながら内定率年内60%、年度内100%を目指す。
	・災害対策マニュアルを整備し、災害発生時の指導を行っているか。 ・方が一に備え、保険加入しているか。	3	・戸塚消防署の協力にて避難訓練ならびに教職員に対する通報訓練実施。 ・安全確認メーリングリストを整備。 ・災害時用食料、防寒具を備蓄。 ・災害対策マニュアルが本校の実態に即しているかについては引き続き精査が必要。 ・「東戸塚駅周辺混乱防止対策連絡協議会」設置にかかわる連絡会に参加。 ・通学時・学内外の実習における賠償責任保険に加入している。	・災害対応マニュアルは継続して関連部署と検討中である。
	・奨学金等の経済的支援があるか。 ・学費減免、学費分納制度があるか。	4	・日本学生支援機構奨学金に対応、岩崎学園奨学金を整備。 ・岩崎ともみ奨学金財団指定校(給付型奨学金) ・入学時および定期試験にて特待生選抜を行い、学費等の減免を行っている。 ・学費分割納入を制度として実施。 ・高等教育修学支援新制度(2020年～)対象機関として認定	・2020年度生より入学時の特待生枠を増加。より多くの新入生が制度対象となった。 ・高等教育修学支援制度対象校として認定。11月に在学予約採用者募集し、問題なく手続きを進めている。 ・新型コロナウイルスの蔓延に伴う経済困難に対しては様々な経済支援の利用について情報提供していく。
宮野	・保護者への情報提供は行われているか。	4	・保護者への便り(成績、出欠状況等を前期・後期期末時に送付)	・引き続き実施していく。
	・同窓会はあるか。 ・卒業生へ学校情報を提供しているか。	4	・2019年度も3月下旬に卒業生対象の勉強会を実施を予定していたものの新型コロナウイルスの感染対策のため中止とした。	・引き続き同窓会活動を支援していく。
	・クラブ活動を支援しているか。	4	・フットサル・ボランティア・バスケットボール・野球・陶芸・バレーボール・バドミントン・テニス・チャリディング等の活動を顧問、補助金で支援している。 サークルで活用するロッカーも必要に応じて割り当てて使用できるようにしている。	・特になし

6. 教育環境

担当	評価項目	令和元年評価	2019(令和元年)年度達成状況	令和2年度に取り組むべき課題等
宮野	・教室の数・広さ、実習室の数・広さは教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	・実習室の数、広さについては養成校設置基準に準拠している	・特になし
	・教室以外に休憩スペースが適切に置かれているか。 ・食堂や運動施設など教育環境を補完する施設が整備されているか。	4	・地下一階に学生ホール完備。各フロアに休憩スペース完備。 ・体育館、箱根研修所、岩崎ミュージアム(コンサートホール)所有。	・特になし
	・校舎全体およびAV機器等の経年劣化に随時対応する。	4	校舎、設備は定期点検し、必要に応じて修理・刷新を実施。 本年度は自動証明書発行機を刷新完了	・引き続き対応する
	・自宅学習を奨励するための設備を提供しているか。	4	・全学生ノートPC(ソフト)貸与し、導入時に最新の環境を提供している。 ・スマートフォンを利用した国家試験対策教材を使用 ・新規解剖生理学デジタル教材としてVisible Body(3D人体解剖学習リソース)を導入 ・Gsuiteを活用したOSCE評価関連及び各種アンケートへの取り組みを行った。 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、卒業式や入学式など数々のスケジュール変更が生じる中、合格者にGsuiteアカウントを付与してきたことで新入生とスムーズに連絡を取ることができ、混乱なく対応できた。	・新型コロナウイルス流行に伴い、これまで以上の自宅学習の奨励と遠隔授業の必要性に迫られている。 ・本校では2019年度よりGoogleが提供するGsuite for Educationというクラウドサービスを利用し、可能な限り遠隔授業を実施する。
武田	・図書室利用者数の増加ができたか。 ・蔵書を増加したか。 ・図書室を整理し使いやすい環境設定ができたか。	3	・図書室活用を図るために、新規蔵書について周知を行い、図書室活用を促した。 ・教職員、学生より蔵書希望のアンケートを実施。蔵書の増加発注を実施した。 ・図書室保管蔵書の整理、在庫確認を実施した。蔵書を22の分類に分け、分別別に在庫確認を実施した。Webでの管理システムを再開した。	・図書活用を推進するために、新規購入蔵書について周知を行い、蔵書利用者の増加を図る。 ・引き続き図書室保管蔵書の整理、在庫確認を実施する。
	・WEB利用者数は増加したか。 ・メディカルオンラインの利用者数は増加したか。また、適正に利用できたか。	3	・メディカルオンラインの利用については、概ね、適正利用されたが、同時に多数の文献を過剰にダウンロードした学生がおり指導を受けている。注意喚起を徹底したい。	・メディカルオンラインの利用については、引き続き適正利用と利用者増加を促す。 ・他の論文検索システムを検討する。
	・最新機能を備えた機器、実習室などは整備されているか。	3	・「養成校備品・設備施設基準」に基づいて保有点検をした際、各実習室の機器、備品の整備を実施した。	・学生教育に必要な教材を継続して購入していく。 ・経年劣化した機材を更新していく。
設備・備品	・各種マニュアル作り、破損・危険箇所への安全対策や備品の修理・新規購入が迅速に行われたか。	4	・教務室内、倉庫内(2階、3階)を中心に物品の点検・整理を実施、不足品、欠品については、修理・補充を行った。	・備品の不足、破損に迅速に対応する。経年劣化した機材を更新していく。

学校法人岩崎学園 横浜リハビリテーション専門学校  
令和元年度自己評価表

7. 学生募集

担当	評価項目	令和元年評価	2019(令和元年)年度達成状況	令和2年度に取り組むべき課題等	
宮野	学生募集	・学生募集計画があるか。また成果は十分か。	4	・2020年度生は両学科ともに定員充足となった。	・定員の充足はもちろんのこと、定員超過にも十分注意する。 ・昨年度の振り返りを基に募集計画の変更について検討する。
		・入学案内書には以下の内容が明示されているか。 育成人材像、目指す資格・検定試験、学費・教材費、入学者選抜方法	4	・「入学案内書」「学生募集要項」に明示。	・特になし
		・入学に関する問い合わせに適切に対応できる体制ができているか。	4	・入試事務局が対応。 フリーアクセス0800-800-4508 infoyocr@iwasaki.ac.jp ・希望に応じて個別相談実施。	・引き続き対応していく
		・学校説明会等において入学情報を提供できているか。	4	・「学校説明会」年間6回開催。 学校紹介・各学科紹介・教員紹介・職業講話・入学説明・校舎案内を実施。 ・「進学説明会」年間1回開催。 ・保護者向け、高校既卒者向け等、状況に合わせた説明会を実施した。 入試面接対策講話・入試情報・分析、個別相談を実施。	・今年度は新型コロナウイルス流行のため年度当初すべてのイベントが中止となり、例年以上に学生募集が困難になることが予想される。 ・今後はWEB上での学校説明会の実施を検討し、本校の受験を希望する生徒やその保護者が安心して受験できるよう施策を検討する。
		・体験授業等で入学後の自分をイメージできるイベントを開催しているか。	4	・「体験授業」を定期的に開催。 ・病院見学実施 ・短時間で校舎見学と体験が可能なオープンキャンパスを実施	今年度は体験イベントや病院見学は自粛するが、その中でいかに理学療法士・作業療法士の職業理解を深められるようなイベントを実施できるかが課題である。
		・入学辞退者の授業料返還が適切に処理されているか。	4	・手続きについては「学生募集要項」記載。 ・2020年度生の入金後辞退者は5名。返金手続きを完了した。	・引き続き適正に対応していく。
		・入学予定者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。	4	・「プレップゼミ」として入学前に5回の入学前講座を計画するも内2回は中止となった。実施した3回については運動・解剖・生理学に触れ、入学後の学習や学生生活をイメージする機会となった。また、講義の動画をTwitterで配信し、参加していない受験生に雰囲気だけでも伝えることができた。 ・プレップゼミの資料配布のため全合格者にGsuiteアカウントの配布を徹底した。 ・入学ガイダンス、オリエンテーションを実施(4/2)。(学生生活、授業内容、学習方法、PC操作などを指導)	・引き続き「プレップゼミ」を開催、Gsuiteの普及を徹底していく。 ・入学ガイダンス(4/1)、オリエンテーションを実施済み。新入生へのPC配布については4月時点で完了できていない。

8. 社会貢献

担当	評価項目	令和元年評価	2019(令和元年)年度達成状況	令和2年度に取り組むべき課題等	
宮野	地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	・高校生向け講座「仕事のまなび場」(夏休み2講座)・小中学生向け講座「小中学生のためのチャレンジスクール」を実施した。 ・職能団体の技能研修会等開催のため、実習教室が活用された。 ・高校等からの依頼による出張授業に参加した。	・ソフトとしての人的資源とハードとしての施設等の資源の活用を引き続き図っていく。
		・学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか。	4	・学外者と学生との事故も想定し、安全確保を図りながら、学校休業日に教室・体育館を貸し出している。 ・地域の老人クラブイベントに施設を提供している。 ・後述の「つなぐカフェ」にて玄関ロビーを開放している。	・学校施設の利用については、地域の社会資源として活用を促していく。
		・ボランティアなどの社会活動に参加しているか。	4	・「介護デジタルハッカソンin横浜」説明会:4/3(水)作業療法学科2・3年計76名が説明会に参加。 ・神奈川県障害スポーツ大会運営ボランティアへの協力:計2回(4/21、5/11)。作業療法学科1年39名参加予定。 ・横浜市介護老人保健施設研究大会:6/1作業療法学科1年39名参加 ・品濃町お茶を飲みましょう会:4/24、5/22(水)作業療法学科3年計7名が参加。 ・東品濃小夏祭りボラ(8/24):1年・2年参加予定。 ・つなぐカフェ:9回実施、学生のべ1年8名、2年10名、3年42名、4年33名、PT26名、のべ参加者80名、その他のべ29名参加。 ・東戸塚敬老会(9/10):敬老会参加者68名、学童14、親6、スタッフ4(つなぐ学生兼務) ・神奈川作業療法学会(7/21):作業療法学科4年計3名が参加 ・らっくる(車椅子マップ):7/5情報校学生・作業療法学科2年4名が参加。「市民がつくるバリアフリー観光」9/23(月・祝)発表。 ・第45回国際福祉機器展H.C.R2019:作業療法学科2・3年計75名参加。 ・アイデアソン(9/28):作業療法学科1年3名参加。 ・未来とつか会議(10/17):作業療法学科2年6名参加。 ・共同創造の精神医療改革(11/6):作業療法学科1・2・3年計115名参加。 ・ME-BYO県民フォーラム健康都市やまとフェア連携イベント(2/2):作業療法学科3年参加予定。 ・「介護デジタルハッカソンin横浜」:11/6(水)・1/16(木)作業療法学科3年計14名が参加。 ・2020認知症フォーラム:作業療法学科2年1名、3年6名発表	・本年度は新型コロナ対策のため、各種イベントが縮小・中止となっており、学生の安全・安心を担保し、可能な限り参加する。
		・地域に対する公開講座などを主催しているか。	4	・地域住民対象の認知症予防を目的とした「つなぐカフェ」を毎月第2土曜日に開催。	・特になし

9. 法令等の遵守

担当	評価項目	令和元年評価	2019(令和元年)年度達成状況	令和2年度に取り組むべき課題等	
林副校長	法令遵守	・法令や専修学校設置基準を遵守しているか。	4	・所管の神奈川県へ学則変更等届出実施、現況調査(学生数・教職員数・卒業状況等)実施した。	・2020年度は、PT学科で84人、OT学科で41人の入学生を迎えることとなった。 ・定員の適正化を図る。
		・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	・個人情報保護規程を文書化。「学生募集要項」記載。	・テレワークによる情報管理を徹底する
		・自己点検・自己評価を定期的に行い、問題点の改善につとめているか。	4	・自己評価は、学校運営の一部(授業アンケート、保護者アンケート、教職員の自己評価等)となっていた。平成24年度より「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、本形式にて実施している。	・PDCAサイクルの徹底に努める ・テレワークの影響により昨年度の振り返りに影響が出ている
		・理学療法教育施設評価(第三者評価)受審対策に向けた情報収集を行えたか。 ・世界作業療法連名(WFOT)の「作業療法士教育の最低基準」の条件に満たしており、認定校として登録されているか。	4	・220年度は、特になし	・2017年4月1日～2022年3月31日までWFOT並びにリハビリテーション教育評価機構による認定が有効となっている。 ・2021年度に再受審予定であり、再受審に向け本年度より準備を進める
		・自己評価結果を公開しているか。	4	・公開中	・引き続き公開していく